

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所)

事業者名	グループホーム 春光	評価実施年月日	平成 20年 1月 10日
評価実施構成員氏名	天谷 ・ 上西 ・ 岡本 ・ 幸村 ・ 大谷 ・ 渡辺 ・ 高橋 ・ 辻野		
記録者氏名	辻野	記録年月日	平成 20年 2月 12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>運営理念、ケア理念ともに職員の考えを集約し作りあげたものである。</p>		<p>地域の中で施設として孤立することなく、地域住民の一員として暮らしの継続のできるよう、理念にうたっている。</p>
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝の引継ぎを始める前に、職員が声に出して理念を確認し日々取り組めるよう努力している。</p>		<p>管理者、職員で理念を共有し、毎日確認することで日々のケアに活かされるよう努めている。理念は入居者、職員の身近な場所に掲示している。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時に渡すパンフレットに理念をうたっている。</p>		<p>今後も運営推進会議を通じて、住み慣れた地域で暮らしの継続ができることの大切さを伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会に参加させていただいていることで、回覧板を介して施設に親しみを感じていただければと思っている。散歩などで挨拶を交わすことは日常化しており、立ち寄りいただけるようになってきている。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>運営推進会議を開催するようになって、地域の行事が把握出来るようになり、参加できるよう努めている。</p>		<p>地域の方が声を掛けて下さるため、今後も行事には出来るだけ参加できるよう努める。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>昨年は、ご近所の高齢者の方が手作りで人形や小物を持参して下さり、入居者の喜ぶのが生きがいと話されており、今後もなにげないかたちで役立てればと考えている。</p>		<p>気軽に立ち寄りいただけることがまず第一と思っている。その中で困っていることなど相談をうけて、その後の対応につなげていきたいと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>年に1度は自分たちを振り返り反省する、良い機会と考えている。改善点を見出した際には、職員間で話し合いより良いケアに繋がれるよう努力している。また、文章化することで、自分たちのケアの良いところを発見、確認できることも職員の意欲につながっていると思う。</p>	<p>自己評価は毎日の引継ぎ時などに盛り込み、日常化したい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では、ホームでの行事・利用状況を報告させて頂き、後は入居者とそのご家族をはじめ、参加者で談話のなかでの意見交換をしている。</p>	<p>去年は町内行事に天候や時間帯などが合わずに、参加出来ないことがあったため、来年度は参加行事が増えるよう努めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>旭川市の担当者、地域包括支援センターは会議には参加出来ない旨の報告があったため、積極的に参加の呼びかけはしていない。</p>	<p>市の担当者、地域包括支援センターにも運営推進会議に参加していただけるよう働きかけたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在必要とする利用者はいないが、講習会に参加するなどして理解を深めたい。</p>	<p>講習会などに参加し理解を深め、必要時に利用者、ご家族に説明できるよう努める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待のないよう注意を払っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>なるべくわかりやすく説明するよう心がけている。不明な点なども質問しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に機会をもうけてはいないが、日常の中で職員と本人、ご家族との会話のなかで、不満に感じていることや意見を言しやすい環境づくりに努めている。本人が言葉にできない方はご家族や職員が本人の意向をくみ取れるよう配慮している。		運営推進会議の議題にも盛り込んでいる。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族との連絡ノートやおたよりを通じて、できるだけ月に1度は報告している。特に変化のある時はその都度電話連絡をさせていただいている。		連絡ノートは来訪時でもなかなか目を通していただくのが大変なこともあり、今後はおたよりと一緒に近況を報告出来るように改善させていただく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常のなかで、常に苦情、意見等が伝えやすい雰囲気づくりに努めている。玄関には意見箱の設置。契約書には外部機関を明記。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	特に改まった機会はまだないが、年に1度は管理者と職員が個別に面談する機会をつくっている。運営者は職員が気軽に立ち寄り、話しやすいよう自室にも配慮している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	今までに大きな勤務時間の変化はないが、短時間でも職員数を増やすなど、今後も臨機応変に対応していく。		利用者が入院された場合は原則ご家族対応だが、ご家族が遠方など特別な理由の場合は出来る範囲でホームで対応している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は必要最小限度になっているため(開設以来、ない)利用者が馴染みの職員による支援が受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修は、同法人内グループホームでの職員が主体となつての研修や、母体の医療法人での研修への参加。外部研修は勤務を調整し受講の機会を確保している。</p>	<p>職員主体の研修は職員自身が考えたものに取り組むため、聞くだけの研修とは違い、自分のものになり勉強になっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>道北ブロックグループホーム連絡協議会主催のものに参加し交流の機会を作っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>福利厚生として、週に1回エアロビクス教室の開催。母体の医療法人と合同でボーリング大会や忘年会などの交流会の開催。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の把握に努め、評価している。各現場では職員がのびのびと働けるよう笑顔で声掛けなどし親しみやすく、相談なども気軽に応じている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族に協力頂き、出来るだけ不安のないような面談を心がけている。ご本人の気持ちを傾聴し受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の時間の許す限り、現状や過去など含め傾聴し、気持ちを受け止めるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに来訪、電話での相談時には、グループホームがどんなサービスを提供するところかわからず相談をうけることが多いこともあり、必要なサービスがグループホームではない場合は、他のサービスの説明をおこなっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	その時の状況や状態によってこの限りではないが、ご家族などにも協力いただき、入居の前にはホームへ足を運んでいただき雰囲気を感じていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中でさりげなくあたりまえに年長者から助言を受けるように、また、年齢の差があることで職員の話にも耳を傾けていただいている…というような関係が築けていると思っている。		日常の会話の中で昔の話などを聴き、当時の言葉や習慣等を教えて頂いたり、草花の育て方、料理の味付けのポイントなどさりげなく関係が築けている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診の際は、ご家族に協力してもらい対応して頂いている。本人の様子、体調で変化がある時は連絡し、相談させていただいている。日々の様子がわかるようにご家族と職員との連絡ノートを作り、来訪時(遠方の方にはお手紙)に見ていただいている。		ご家族が来訪時にノートに目を通すのが大変なこともあり、連絡ノートに代わり、2月分からはおたより形式にて定期的に郵送する予定。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前後に本人、ご家族などから生育暦や生活の様子をアセスメントさせていただき、入居後も本人、ご家族がよりよい関係を保てるよう相談させていただきながら支援している。		今後も本人、ご家族の心情、要望の理解に努め、ホームでの生活がお互いにとってよい結果となれるよう努力していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に協力頂き、出来るだけ入居前の関係が保てるよう支援している。定期的に来訪されるご家族が多いため、本人の安心や楽しみにつながっている。		ご家族などとの外出、外泊される場合はホームに気兼ねされることのないよう雰囲気づくりに努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他者との関係が難しい方も出来る限り孤立しないようデイルームに工夫したり、職員が入るなどし、関わりあえるよう支援している。(特にレクリエーション、室内行事)		レクリエーション時など、全員で行うのが難しい場合は気の合うグループに分かれるなどし、孤立しないようにしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者、ご家族が希望される場合は出来る範囲でよい関係が保てるよう配慮する。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るかぎり努めているがゆっくりと話を聴けていないこともある。時間を作り、本人の思いを傾聴し受け止めていくよう努める。困難な場合はご家族に相談しながら教えていただきながら検討している。		物静かな方などは、会話をもつ時間が足りなかったりしていることもあるため職員から積極的に関わりをもち、本人の気持ちを受け止めるよう努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人、ご家族、ケアマネージャーなどに協力いただき、アセスメントし把握に努めている。入居後も会話の中から把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録、引継ぎを活用し現状を把握できるよう努めており、本人にとって出来る限り自立した生活が送れるよう支援している。		ひとり、ひとりの出来る力を把握し、最大限のところまで行えるよう支援したい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族、主治医等と必要時に話し合い、職員からの日々の生活の様子を総合しプランを作成している。本人が日々必要としていること、訴えていることを出来る限り支援できるよう作成している。		本人、ご家族の意向が反映されるよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居後は本人の状態、様子も変化が大きい時なため、評価期間を短く設定して対応している。その他、本人に変化のある場合はご家族に出来るかぎり相談させていただいている。		必要時にプランの見直し出来るよう努める。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録、引継ぎ、ミーティング、連絡ノートを通じ、情報の共有をし、プランの見直しに活かしている。		ケアプランにそった記録ができるよう、個別記録の見直しを検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームで出来る限りの支援に努めている。		本人からは日々の会話のなかで、ご家族からは来訪時や運営推進会議にて要望を聴く機会をつくっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	帰宅願望が強い入居者など、一人で外出し行方不明になる可能性があるため、警察には名簿(必要な方は写真も)を提出している。		今後は、消防訓練、運営推進会議への参加など呼びかけたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホーム入居の対象でなかった場合など、必要に応じて支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時は協働していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院の看護師は入居者を把握してくれており、気軽に相談できる関係である。定期的に健康診断を受けるなど健康管理に努めている。		本人の状況により、受診や服薬の相談を行い病院の指示をうけ、支援に努めている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居時を含め、必要時にご家族、主治医と相談し専門医の受診をしている。		本人の状況に応じ、主治医、ご家族と相談し専門医の受診を支援している。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに看護職員は勤務していないが、かかりつけ医の看護師と気軽に相談が出来る関係であり、必要時に医療をうけられるよう支援している。		かかりつけ医の看護師とも今後も連携し、健康管理や医療の支援を受ける。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医に入院の場合は情報交換し早期に退院できるよう努めている。他病院に関しても面会や、ご家族との情報交換で病状の把握に努め、相談している。		他の病院の場合はご家族との連絡を密にして情報交換に努めている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医と連携するとともに、本人、ご家族の意向を早期より確認し日々変化すること話し合いの機会を設け意思の確認をしている。また、職員間でもよりよいチームケアが提供できるよう方針を共有している。		本人の状況に応じたケアプランの見直しを含め、ご家族、主治医と方針を共有している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医、職員間で連携し取り組んでいる。また、ご家族にも協力いただき、本人が少しでも安心して生活ができるよういつでも来訪していただけるよう配慮している。		入居者の状況、様子を日々観察し主治医に報告し連携に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	出来る限り関係者との話し合い、情報交換を行い、本人に負担のないように努めている。		自宅からグループホームに移られる時は本人の生活状況を把握し不安材料を取り除くよう努力している。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人への言葉かけ、対応は気分を害することのないよう配慮している。記録は他者に個人が特定されないよう記名しないようにしている。		特にプライバシーに関することはそっと話をしたり、何気なく声掛けをしたりする配慮をしている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人一人に合わせた働きかけを行っている。一番好評なのは行事で出前をとる時にメニューから好きなものを選ぶのが楽しい様子。		自己表現や決定が難しい方には声掛けや選択しやすい配慮、又は、ご家族に趣向を確認したりし、支援している。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り入居者の希望に添えるよう支援している。		その日の状況によっては本人の希望に添えない場合があるが、本人に後日でもよいかどうか伺うなどし、極力希望に添えるよう努めている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人一人に合わせた身だしなみの支援をしている。理容・美容はご家族と相談し入居前からの馴染みの店を利用するなどの支援をしている。		希望があるときはご家族と相談して支援している。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の形態はもちろん、趣向も出来るだけ取り入れられるよう配慮している。食事の盛り付けや食器拭きは個人に合わせて職員と一緒にやっている。		入居者が台所に入るのを不快に感じる入居者もいるため、手伝っていただく場合はその方の自席で行っていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人に合わせた支援をしている。(ホーム内が禁煙のため、喫煙は玄関先でお願いし、お酒は行事の時に提供またはご家族と外出、外泊時に・・・など) おやつ、飲み物も個人の力量に応じてご家族と相談しながら管理も含めて楽しめるよう支援している。		ホームでのおやつ希望を聞いたり、行事などでは本人の好きなものを選ぶ楽しみを持てるよう支援している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を少しでも排泄時に合わせられることで失敗を防ぐよう努めている。トイレ誘導は気分を害することのないように声がけするように努めている。		排泄のパターンを考慮しながらトイレ誘導をおこなっている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夕方、夜間など含めて、出来る限り希望、タイミングを合わせ声掛けを行っている。		本人の希望を聞き、昼夜問わず入浴できるよう支援している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の状況に応じて支援している。特に日中は夜間の睡眠のさまたげにならないようにも注意をはらっている。		一人一人の状況、身体状態に合わせて休息できるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人に合わせて、散歩、買い物、読書、ぬりえ、うたた寝など好きなように過ごせるように支援している。行事ごとに何かすることで楽しみにもつながっている。		冬期間は外出を楽しむ機会が少ないため、一人一人の興味を活かせる事を見つけ、支援していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の力量に合わせ、ご家族とも相談しながら協力いただき、所持できるよう支援している。		個人で所持されているかたの多くは買い物が好きのため、ご自身で持参金のなかで買い物ができるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬場は少ないが、希望や日常的に、散歩、買い物、外気浴などホームの外に出掛けられている。		ホームの日よけの下にベンチを設置したところ、入居者をはじめ、近所の方にも利用されている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事では季節を感じられるよう桜、紅葉を見に行ったり、外食をしたりなどしている。ご家族などと出掛けられる方もいらっしゃるため、いつでも出掛けられるように支援している。		少人数で近くのお店におやつを食べに出掛けたり、お弁当を持って公園へ行ったりしその後ドライブをするのは好評である。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙、電話とも希望に応じている。		年賀状は入居者が手作りし出している。今年は暑中見舞いのはがきも出してみたいと考えている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるよう配慮している。デイルーム、自室、落ち着く場所で過ごしていただいている。		来訪者があると不穏になる入居者もいるため、職員が付き添うなどしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合はご家族に説明のうえ同意書をかわし実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室、玄関の鍵はかけずに日々生活している。外玄関はデイスサービスと共有でもあり、セキュリティー上電子錠を使用し外部者、来訪者にはインターホンを押していただくようご協力いただいている。居室は入居者自身が鍵を掛けている方がいる。(特に夜間)		内玄関には鈴をつけ、出入りがわかるように工夫している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居室にいる時間の多い方は掃除、お茶、入浴などの声掛けをしながら様子確認をしている。夜間は定時の巡回などで安全の確認をしている。		夜間巡回をしているが、居室に鍵をかけている入居者は入眠のさまたげにならないよう開錠様子を把握し安全に配慮している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その時の入居者の状態にあわせて危険を回避できるよう配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状態に合わせた事故防止では特に転倒、窒息に注意をはらっている。ご家族にも協力いただき、靴や補助具、個人持ちのおやつの種類や形態など相談しながら事故防止に努めている。		薬の管理は袋一つ一つに記名、服薬時間、日付を記入し空袋を回収。確認作業も数回している。嚔下状態が良くない方は職員の傍で飲食していただいている。避難訓練は夜間を想定するなど、定期的を実施している。地域の警察には入居者名簿(必要者は写真も)を提出し、行方不明時には協力していただけるようお願いしている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的には実施していないが、初期対応は各職員スムーズに対処している。		研修を通じてさらに理解を深め、訓練も定期的に行ってほしい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日中、夜間を想定しての消防訓練の実施。地域の方には運営推進会議を通じて訓練の様子を伝えている。ホーム近くの公園が災害時の避難場所となっており、町内で訓練も実施されている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々に日常起こりえるリスク、その他必要に応じてご家族に報告させていただいている。ご家族を相談の上対応したり、実施状況の報告をしたりしている。		リスクをご家族に了承いただきながら、日々の生活の支援をさせていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>起床時の血圧測定、検温をはじめ排泄、食摂状況など日々観察し、変化に速やかに対応できるよう支援している。主治医、ご家族とも情報を共有し対応している。</p>	<p>主治医と連携し、定期的に検診を受け、体調変化の早期発見に努めている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>日常的には、便秘薬の管理は本人の排便の様子を伺いながら調整し快適に排泄が出来るよう支援している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>個人の身体状況に応じて水分量や歩行、離床など日常的なことで便秘の解消ができるよう支援している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>個人により、毎食後、就寝前など回数もさまざまだが今までの生活習慣も考慮しながら清潔に保っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個人記録を活用し職員間で共有しスムーズに支援できるようにしている。</p>	<p>食事摂取量が少ない方は、ご家族にも協力いただき間食をするなど対応策を相談し実施している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>入居者、職員ともうがい、手洗いは習慣となっている。感染症のマニュアルがあり実行している。</p>	<p>うがい、手洗いはご家族にもインフルエンザやノロウイルス流行時期に協力いただいている。また、年未年始は大勢での訪問を控えていただくなど協力をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具やフキンなど台所用品の漂白は毎日行い衛生面に注意をはらっている。食材は業者の管理のもと安全なものを搬入し使用している。		生ものはすべて加熱調理をしている。生寿司などは、出前で対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏季は玄関前に花壇、裏には畑をつくっている。玄関の看板は手作りで入りやすい雰囲気づくりに配慮している。玄関先にはベンチを設置し、町内の方にも気軽に使用していただいている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは草花をかざり、入居者が手入れしやすいよう配置している。季節感のあるテーブルまわり、壁面になるよう工夫している。		入居者に馴染みの音楽は共有スペースで常にながれているが、テレビは観ていないときは消すよう努めている。日差しが強いときはカーテンをひき不快にならないよう配慮している。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにはところどころに一人がけのイスやソファを設置し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		共有スペースのイスを増やしたことで、デイルームで何気なく過ごす時間が増えている。今後も入居者の状況に合わせて設置場所やイスの工夫をしていく。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族には使い慣れたものを持参いただくよう説明し相談のうえ居室づくりをしている。		入居後は本人の状況の変化に応じて必要時に模様替え、配置がえをおこなっている。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気、空調は入居者の様子をみながら行っている。		夏季猛暑のときはエアコン使用時寒いかたもいるため、空調の風が直接カラダにあたらないよう紙などで覆うなど工夫している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーとなっている。車椅子が使用しやすい動線や幅の確保、手すりの設置。車椅子でも使用しやすい洗面台の設置。居室、トイレのドアは引き戸で開閉しやすいものを使用。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレにはドアに文字で表示。居室には表札がわりに写真を掲示したり目印を使用。</p>	<p>ダイルームの席は自席が自然と決まっているため、他者の席に長く座るようであればお互いが混乱しないように職員が配慮している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季は玄関前に花壇、ホームの裏には畑をつくり、ベンチを設置し休めるようにしている。玄関前は日よけがあるため、陽射しの強いときでも外気浴がしやすくなっている。</p>	<p>昨年秋は2階の高齢者マンションの方が漬物用の大根を外の木に干しており、ホームの入居者は懐かしそうにながめたり、話をされていた。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の認知症症状はさまざまであるが、共有スペースで過ごす時間が多いため、出来るだけ一人ひとりが居心地のよい暮らしが送れるような共有スペースづくりを職員が一丸となって日々取り組んでいる。